

# 難破船に残されたトランスジェンダーの世界

白井那奈

## はじめに

アドリエヌ・リッチ (Adrienne Rich, 1929-2012) の代表的な詩集 *Diving into the Wreck* (1973) の表題作は、象徴的な潜水行為を通して自己のジェンダー認識にたどり着く過程を描く。出版当時の批評の多くは、詩は両性具有を示していると解釈したが、リッチは次の詩集 *The Dream of a Common Language* (1978) で両性具有を否定した。本発表では、20 世紀終わりから発展してきたジェンダー学における脱二元論的視点を踏まえ、「空気と水」という詩的言語が表現する「境界」に着目してテキスト分析を行うことで、“*Diving into the Wreck*”はジェンダーの二分的境界を超えるトランスジェンダー、または境界を疑う・否定するノンバイナリージェンダー詩であることを明らかにした。

## 女と男と両性具有

詩集が出版された 1973 年当時の詩の批評やジェンダーに関する議論は、女、男という二元論的ジェンダー観に基づく両性具有が中心であった。両性具有 (Androgyny / androgyne) とは、ギリシャ語で男性を意味する “Andro” と、女性を意味する “gyne” を組み合わせた語である。

エリカ・ジョングは、リッチの両性具有は新たな人間性の創造であったと評価し (174)、グレイス・シュルマンは詩の重要なテーマは固定的な男性または女性というアイデンティティを持たない両性具有であると指摘した (11)。また、当時は心理学分野でも両性具有が注目され、心理学者のサンドラ・ベムは、社会的に望ましいとされる女性的、男性的、中間的な特徴から被験者は自分にあてはまる特徴を選択し、各特徴のスコアに差がないとき両性具有者とする心理実験を行っている。

両性具有の語源やベムの実験方法からも理解できるように、両性具有者は女性性と男性性の両方を同じ程度持ち合わせる人を指している。

## 女性中心の語りとジェンダー学の発展

その後リッチは両性具有を否定し、ジェンダー学の発展とともに二元論的ジェンダー観への疑問が投げかけられていく。詩集 *The Dream of a Common Language* に収められた “Natural Resources” で、リッチは “There are words I cannot choose again: /humanism androgyny” (ll. 143-44) <sup>1</sup> と述べた。

スーザン・スタンフォード・フリードマンはリッチの両性具有否定を批判したが (Friedman 243)、リッチは歴史や言葉が持つ誤った包含性の点から両性具有やヒューマニズムは適切な言葉ではないとフリードマンに反論した (Rich, “Comment” 735)。リッチがフリードマンの詩解釈に対し不快を示す態度は、第二波以降のフェミニズムが女性個人間の人種やセクシュアリティ、階級、宗教などの違いを重要視する態度と矛盾している。

21 世紀になると、大学では女性学に加えジェンダー学が取り上げられてきた。ジェンダーとは文化人類学、文学批評、ポスト構造主義など様々な分野の影響を受けて形成されるカテゴリーであり、ジェンダー認識は流動的に変化する (Smith 101-02)。そこで、生物学的な性を「超える」という意味を持つトランスジェンダーや二元論的発想にとらわれないノンバイナリージェンダーなど多様なジェンダーの視点が重要である。

## 境界を超える、疑うダイバー

“*Diving into the Wreck*” のダイバーは空気と水の間にある境界を越え、境界存在を疑い否定し、自分たちを縛り付けるものを壊すことで、自己のジェンダー認識に至る。

ダイバーは空気と水の境界を “a ladder” (l.13) で超えていき、水中に入ると呼吸を意識するようになる。呼吸の際に “the oxygen” (l.24) が身体を通り、“the clear atoms/ of our human air.” (ll. 26-27) が水中に吐き出される。空気の表現方法が呼吸の前後で異なることで、ダイバーの身体全体が空気と水の境界にあり、その境界を曖昧にさせていることが分かる。さらに、ダイバーは “there is no one/ to tell me when the ocean/ will begin.”

(ll. 31-33) と感じ、明白である海面という境界の存在自体を疑う。“First the air is blue and then/ it is bluer and then green and then/ black I am blacking out” (ll.34-36) では空気、水、太陽光の三者が作り出す世界が曖昧で境界がないことが示される。その光のスペクトラムを見る人間の眼は空気中でのものを見るようにできているため、水中で視界を良好に保つためにマスクの中に入った空気を必要とする。しかし、潜るにつれてマスク内の空気と外の水圧で圧力の不均衡が生じ、“my mask is powerful/ it pumps my blood with

power” (ll. 37-38) と、マスクの締め付けを感じている。ダイバーは、マスクの存在によってつくられる空気と水の境界に苦しさを覚える。

ついに目的地に辿り着いたダイバーは、初めて自分のジェンダーに言及する。ダイバーは “we dive into the hold.” (l.76) と「船倉」に飛び込んでいくが、この表現がタイトルの “Diving into the Wreck” の繰り返しであること、リッチが “When We Dead Awaken: Writing as Re-Vision” (1971) で “hold” を「(私たちを) 縛り付けるもの」の意で用いたことから、“dive into the hold.” は「(私たちを) 縛り付けるもの (hold) に飛び込む」ことでありながら「破壊 (wreck) に飛び込む」ことを指すと考えられる。複数の “we” (l. 76) だったダイバーは “I am she: I am he” (l. 77) では単数 “I” になる。これは、破壊に飛び込み、縛りから解放される経験の後で、個人的な “I” の中の流動的なジェンダーを見つめ直したことを表している。難破船で見つけた “the water-eaten log” (l. 85) はこれまでの航路の記録を示さない侵食された航海日誌、<sup>2</sup> “the fouled compass” (l. 86) は方角を示せないコンパスであり、海の底ではダイバーの行く先を縛り付けるものはなにもない。“Diving into the Wreck” では両性具有や確固たるジェンダー自認についての直接的な言及はなく、詩におけるジェンダー解釈は限られない。難破船に辿り着くまでに空気と水という混ざらないものの境界を曖昧にさせ、超え、存在を疑ってきたダイバーの経験を踏まえると、海の底で見つめ直した “I am she: I am he” で表現されるジェンダーとは、二元論的な境界に苦しみながらも境界を曖昧にさせ超えていく、さらには境界の存在を疑うトランスジェンダー、またはノンバイナリージェンダーだと捉えることができる。

## おわりに

本発表では、空気と水の境界に注目して “Diving into the Wreck” を読むことで、従来両性具有と解釈されてきたダイバーのジェンダー自認が流動的かつ脱二元論的であることを示した。第二波フェミニズム時代のフェミニスト詩を “re-vision” することで、ノンバイナリー・トランスジェンダー詩として解釈することが可能になり、難破船に残された世界は 21 世紀のジェンダー学視点の読みにも耐えうるよう広がりを見せた。

---

## 註

<sup>1</sup> Rich, Adrienne. *Collected Poems 1950-2012*, W.W. Norton, 2016. 以下の詩の引用は全てこの版による。

<sup>2</sup> 「難破船に潜る」白石かずこ、渡部桃子訳、思潮社、1993 年は、“the water-eaten log” を「水につかった丸太」と訳している。

## Works Cited

Bem, Sandra. “The Measurement of Psychological Androgyny.” *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, vol. 42, no. 2, 1974, pp. 155–62, doi:10.1037/h0036215.

Friedman, Susan Stanford. “‘I Go Where I Love’: An Intertextual Study of H. D. and Adrienne Rich.” *Signs*, vol. 9, no. 2, 1983, pp. 228–45. JSTOR, www.jstor.org/stable/3173779.

Jong, Erica. “Visionary Anger.” *Adrienne Rich’s Poetry: Texts of the Poems, The Poet on Her Work, Reviews and Criticism*, selected and edited by Barbara Charlesworth Gelpi and Albert Gelpi, WW Norton & Company, 1975, pp.171-74. Originally published in *Ms.*, vol. 2, no 1, 1973, pp.31-33.

Rich, Adrienne. *Collected Poems 1950-2012*, W.W. Norton, 2016.

---. “Comment on Friedman’s ‘I Go Where I Love’: An Intertextual Study of H. D. and Adrienne Rich.” *Signs*, vol. 9, no. 4, 1984, pp. 733–38.

---. “When We Dead Awaken: Writing as Re-Vision.” 1971. *Essential Essays*, edited by Sandra M. Gilbert, W.W. Norton, 2018, pp. 3-19.

Schulman, Grace. “Review of Diving into the Wreck.” *American Poetry Review*, vol. 2, no. 5, 1973, p.11.

Smith, Bonnie G. “Women’s Studies and The Question of Gender.” *Women’s Studies: The Basics*, Routledge, 2019, pp.101-117.